

杉戸町立広島中中学校 令和5年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		改善策	学校関係者評価	
				評価	達成状況(成果・課題)		評価	意見・要望・支援策等
確かな学力	基礎基本の定着	①家庭学習の年間を通した取り組み(コバトン問題集の活用) ②小テスト、単元テストによるスモールステップ	①家庭学習実施率9割 ②小テスト、単元テストによる評価、授業改善を5教科で実施	B	○全学年で年間を通して実施し、毎朝行った。 ○生徒のつまづきを確認、日常における学習習慣をつけるために実施した。 ○校舎の改修工事もあり、教室の掲示物は最低限のものとし、教室の全面には年間を通して代わり映えのしない派手でないものを掲示し、黒板には何も掲示しないように統一した。 ○昨年度に引き続き相互授業参観を実施した。2学期には理系・文系・技能系に分かれて校内研究授業を実施し、放課後に協議も行った。 ○今年度よりタブレットを持ち帰らせ家庭での使用を行っている。主に長期休業期間の宿題やしおりの配信を行っている。	○クラスによってばらつきがあるものの、6-7割の実施率となった。実施方法、実施の有無も含めて年度当初に検討をしていく。 ○保護者アンケートで評価規準が不透明という意見があったため、改めて年度初めに各教科担当より評価規準について説明をしていくことを確認する。 ○教室の掲示は全クラスで統一されている。廊下に行事や季節に合わせたものを作成・掲示していくことが課題である。 ○教員によって月に一回の参観が難しいことがあり、短時間でも参観し、意見を交換し合えるよう進めていく。 ○ICTの家庭学習での利用は長期休業期間の実施が多く、課業日では十分に生かし切れていないという現状があり、来年度の課題としたい。	B	・家庭学習は毎朝時間を確保するなど日常生活における学習習慣が望ましい。 ・家庭学習のプリントをタブレットでダウンロードすることはできないだろうか？ ・生徒自身が達成度を知るためにも、自己採点でも構わないので小テストの継続を望む。 ・タブレットの持ち帰りが家庭学習の充実に繋がっているのか検証すると良い。 ・教員同士の参観が実施されることで指導力も向上し、生徒の意欲の向上も期待されると思います。 ・相互授業参観は、空き時間の少ない先生方にとっては、月1回の実施は厳しいものがあると感じております。しかしながら、先生方の資質向上に効果がある取り組みですので、負担にならないように工夫して行っていたらと思います。
	学習意欲の向上	①教室の環境整備 ②相互授業参観 ③ICTの活用	①学びのルール、ユニバーサルデザインによる環境整備全クラス実施 ②相互授業参観(月1回) ③ICTによる家庭学習の充実(宿題)	B				
豊かな心	道徳教育の充実	①学年職員による道徳教育の充実 ②道徳に関する学級通信の発行	①学年職員のローテーションによる道徳の実施。 ②道徳に関する学級通信の発行(学期1号以上)	A	○年間を通して道徳教育を学年職員で行うことができた。また、行事に合わせて担任が授業をおこなう時間を設け道徳実践力の育成に努めた。 ○今年度より担任が発行することで生徒の声を保護者に伝えることができた。 ○外部機関と連携して実施することができた。3学期には元日の震災に向けた募金活動も実施する(2月)。 ○東中中学校との交流会を3回(合唱発表、スキー教室2回)行った。また、小学校・社会福祉協議会のイベントにボランティアとして多くの生徒が参加した。 ○体育祭及び合唱祭では縦割りでの交流を行うことができた。	○来年度も継続していく。 ○学級によって偏りがあるため、道徳担当が呼びかけ学年で足並みを揃えていきたい。 ○福祉体験、社会体験は生徒が受け身の部分が多いため、学年間の交流として下級生の事前学習で指導する、東中と合同開催など実施形態を工夫していく。 ○来年度は体育祭、合唱祭の合同実施ができないか、東中と検討中。 ○行事だけでなく、学年行事(スキー教室や東京班別行動)や日常における交流(球技大会、学級レク)の場を検討していきたい。	A	・道徳教育については、先生方によって偏りがあることは、よく聞く話です。学年内で足並みをそろえる工夫をしていただければと思います。 ・道徳教育の充実により生徒のよりよく生活することへの意欲が湧くものと思います。次年度も継続してほしい。 ・生徒間の上下関係が良好なのは良いが、常識内の礼儀やマナーは必要だと思う。 ・東中との統合に向けて、合同の宿泊行事や交流会等、難しい調整を図りながら実施したことは大いに評価できる。 ・体験行事と学年間交流を関連付けるとは良い取組である。 ・社会体験等は経験が少ないため、受け身の部分が多く、学習以外の大切な体験なので継続することで効果を期待したい。 ・他学年交流で道徳や総合の時間を活用してはどうか。
	体験活動の充実	①福祉体験活動(1年) ②社会体験チャレンジ(2年) ③他校との交流活動 ④学年間交流	①②社会福祉協議会、町商工会と連携して実施 ③東中と合唱祭、球技会で交流 ④学校行事における縦割り活動の実施	A				
健やかな体	健康教育の充実	①学校保健委員会の開催 ②う歯治療率の向上 ③保健だよりによる健康教育の推進	①学校保健委員会2回実施 ②むし歯治療8割 ③保健だより毎月発行	A	○2学期と3学期に実施することができた。保護者の参加希望者を募り、参加する保護者には授業参観もしていただいた。 ○今年度の治療率は89.3%。養護教諭の呼びかけ、掲示物の作成により高い治療率となった。 ○養護教諭が毎月手書きで発行し、健康教育の推進を行った。 ○毎時間準備体操の後に補強運動を実施することができた。 ○各部活動の月予定を提出し、管理職が把握し、ガイドラインの順守を確実に行った。	○今年度は2名の参加だったため、来年度は別の行事と兼ねるなどをして参加人数を増やしていきたい。 ○紙での配布のため、メールでの配信に切り替えていく。 ○体育の授業だけでは不十分のため、部活動や体育委員の活動を通じて全校生徒に運動に親しむ機会と正しい知識を付けていくようにする。 ○大会前の朝練習や休日練習等、期間によって負担が増えるため、年間を通してバランスを取っていけるように呼びかけをしていく。	B	・授業参観日やPTA行事と学校保健委員会を兼ねるなど、保護者参加の工夫を期待したい。 ・虫歯の治療率8割は素晴らしいと思う。 ・新体力テストで県平均に達しなかった種目を全教職員で共有し、部活動等で共通のトレーニングを実践すると良い。 ・健康が生きていくうえでベースになっているという教育を大切にしていきたい。 ・全部活の予定表を把握しているのは良い。 ・部活動の指導は、先生方の大きな負担になっていると思います。行政のリーダーシップにより部活動の指導が外部等へ委託できるようになることを期待しています。
	体力の向上	①基礎体力の向上 ②部活動ガイドラインの完全実施	①新体力テスト 県平均達成5割 ②部活動ガイドラインの順守	B				
学校独自	PTA活動の改革	①PTA協力員の要請 ②PTA活動の精選	①体育祭、合唱祭における協力員の要請 ②執行部と連携し、年間を通しての活動を精選していく。	A	○体育祭や合唱祭、環境整備等の活動の機会を設け、協力員の要請を行った。 ○協力員の要請を行ったことで執行部の活動は最低限のものになっている。専門部の招集は行わなかった。 ○RSTや学力学習状況調査等の結果を分析し、指導法や声のかけ方など研修を行った。 ○年間を通しての校内研修、3領域に分けてのモデル授業の実施を受け、相互授業参観と広く公開授業を実施した。	○今年度の活動を見て、来年度以降は協力員の希望者が増えるだろうと見込んでいる。さらなる協力員の活動要請を検討していく。 ○PTAの新たな活動形態はいい土台が作れたように思う。授業の補助(実習)については来年度教科担当から希望があれば受け付けていきたい。 ○日常の授業や生活における読解力の課題についての研修を深めていきたい。 ○公開授業の全員の実施ができなかったため、来年度は完全実施するとともに、全教職員がタブレットを活用した新しい学びについての理解と授業改革を浸透させていく。	A	・協力員による新たな活動形態は現状に即した取組みであり、今後のPTA活動の方法として期待が持てる。 ・協力員の参加はメールで呼びかけたことの結果だと思う。 ・授業でのタブレットの活用は、授業のどの場面で利用するのか各教科で明確な指導計画が望まれる。 ・便りのメール配信は時代に合った良い方法だと思いました。 ・親の世代が時代と共に変わり、育った環境が違う事からPTA活動に協力していただける親が少なくなってきたので小学校と協力し、対策を講じる方が良いのでは。 ・保護者の参加できる参観を増やすために駐車場の確保などはできないか。
	学校課題研究の推進	①読解力のつまづきを考えた生徒対応 ②個別最適な学び、協働的な学びを意識した授業改革	①②校内研修における教職員の共通理解 ②相互授業参観、モデル授業を年4回実施し、来年度以降全教科での実施を目指す。	B				